



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2023年5月1日

5月 第255号

奈良・人と自然の会



<ならやまの鍾馗さん>



## Contents

ホームページでは、カラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



|                   |   |             |    |
|-------------------|---|-------------|----|
| ならやまの自然観察会・レポ     | 1 | タンゴに魅せられて   | 9  |
| ならやまプロジェクト        | 2 | 遊行期の随想      | 10 |
| Monthly Repo ならやま | 3 | 病害虫講座       | 11 |
| 里山の今（里山・エコ）       | 4 | 私の“哀しき高校野球” | 12 |
| 里山の今（虫だより・花だより）   | 5 | 新ならやま投句箱    | 13 |
| 新入会員歓迎会・レポ        | 6 | 行事案内・奈良学クイズ | 14 |
| 仲間入りしました          | 7 | 幹事会報告・編集後記  | 15 |
| 月例研修会（ナメゴ谷）・レポ    | 8 |             |    |

## ならやまの自然観察会・レポ

パトロールGの応援で初めて  
「春のならやま」にて開催！

小島 武雄

令和5年度4月、自然教室

(ならやま自然観察会) 参加者総数 38名

4月6日(木)、今年最初の自然教室が行われました。パトロールGの協力を得て、ならやまBC周辺で行われた、はじめての観察会です。

曇り空でしたが絶好の観察日和、12時30分、会員26名が4班に分かれて、スタートします。最初にベースキャンプのテント裏、見たことのないアミガサ茸。こんな所に！よく見つけてくれました感謝です。前日の雨のおかげで、ならやまは満開のお花畑になりました。

四季の丘、A地区、緑陰広場、梅林の各ポイントでは、パトロールのメンバーが、待機しています。いつも見慣れた場所ですが、説明を聞いてよく見ると。思わぬ景色が広がって行きます。

エントランス広場から四季の丘では、紫花菜に始まり、レンギョウ、青木の幼木、アイリスジャポニカ、満開のウワミズザクラ。

A地区では、ノエンドウ、カスマグサ、カンサイタンポポ、踏まれても負けない大葉子の強さ、ニッケイの味見まで。

緑陰広場では、一面のムラサキサギゴケが迎えてくれ、タネツケバナ、満天の星の話からキリストまで広がります。また、この広場を見守って来て、季節の草花の大切さを語ってくれました。

梅林周辺は、ギシギシ、スイバ、ヨモギ、ナズナ(七草)など、ノビルを掘り出したりして、食べられる野草の話。たくさん知らない話や、面白い話が出てきました。「この花は何？」の質問も多数あり、皆さん、何気なく見過ごしている草花に、関心を持っていただけたようです。



エントランス広場周辺



A地区入口付近



緑陰広場



梅林あたり

身近な野草28種、樹木多数を観察。あっという間の75分でした、皆様ありがとうございました。また秋のならやま観察会をお楽しみに。

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

あっという間に桜の季節は過ぎてしまったが、野には様々な花が咲き乱れ、木々には若葉の緑がまぶしく、生き物の息吹が最も強く感じられる季節がやってきた。一昨年5月はコロナ禍でまるまる活動が休止となり、2002年8月以来214か月継続していた会報誌の発行も途絶えた。「誰もいないならやま」がとても寂しく感じられた。コロナウィルスの脅威はなくなったわけではないが、マスクのない満面の笑顔が活動が蘇ったことのありがたさを改めて感じさせてくれる。

20日の活動日はベースキャンプの気温が29度まで上昇、熱中症計は「警戒」レベルを示すほどの暑さになった。気温の変動が大きく油断できない。また、奈良県環境政策課から広報取材に来られ、ならやまの素晴らしさを伝える機会をいただいた。私たちの活動を評価して応援してくれる人たちがいることに感謝し期待に応えなければと思う。

## 5月の活動特記事項

5月4日(木)：協働活動(アダプトプログラム・平城宮跡草刈り)

## 5月の各グループ活動予定

| グループ   | 活動予定   |
|--------|--|
| 里山     | 里山林内整備(楢木置場、No.29地区)、薪割り<br>テント倉庫屋根補修<br>ユート：アカマツの森でのマツの間伐整備                     |
| エコファーム | 野菜定植用畑の準備とナス、ピーマン、カボチャ、スイカなどの定植<br>サツマイモ畑の整備と植え付け、ジャガイモ芽かき、サトイモ畑除草<br>鹿ネットの補修・張替 |
| 景観     | 整備：平城宮跡草刈り、彩の森草刈り、ミツバチ巣箱整備<br>ビオ：池・水路保全、環境整備<br>花：樹木・花の草引き                       |
| パトロール  | 1~3コースパトロール、観察路整備、保護植物周辺整備、笹草刈り<br>テント倉庫屋根補修                                     |
| 果樹     | 鹿よけフェンスの設置、実りの森の除草、鶏糞引き取り<br>果樹栽培の研修   |

活動日：毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



## Monthly Repo. **ならやま**

冨井 忠雄

### 3月24日(金)曇り 38名

先日の雨の影響で参加数が少なかった。30日の新入会員歓迎会の準備を行う。

里山Gは椎茸椀木置き場の伐倒木の玉切り、苗床へのどんぐり植付けと竹チップ散布。ユートピアはひらたけの収穫と整備、赤松の間伐。エコGはレタスなどの移植とネット掛け、じゃが芋植付け。景観Gは伐採竹のチップ処理など。花班は山野草園の草引き。パトロールGは1コースのパトロール、丸太階段設置、北壁観察路の整備。果樹Gは実りの森南側斜面の整備、コンポスト作り、大レモンの挿木など。



### 3月30日(木)晴れ 75名+8名

4月の月例研修会(ナメゴ溪谷)の案内があった。ジュニア自然大学から8名が来訪、イベントの打ち合わせを行う。12時からの新入会員歓迎会では、担当スタッフに昨年度入会会員が協力して、焼きそば、ネギ焼き、おでんなどが提供された。

里山Gは椎茸椀木置き場周辺の間伐処理。エコGは大根畑の除草、牛蒡跡の整備。景観Gは伐採竹のチップ処理。花班は山野草園の草引き。ビオ班は水田の東側水路泥上げと掃除。パトロールGは2コースのパトロール、自然観察会の打合せ。果樹Gは実りの森南側斜面の整備など。

### 4月6日(木)曇り 55名+2名

アダプトプログラム実施。午後にはパトロールGが中心となって自然観察会が開催された。いこま棚田クラブのメンバー2名が先日提供し

たコナラなどの苗木のお礼を兼ねて来訪。

里山Gは椎茸椀木置き場周辺の間伐と処理、薪棚新設工事。エコGはカボチャなど種まき、水田の耕耘。景観Gは伐採竹のチップ処理、筍掘り(約30本)。花班は山野草園の草引き。ビオ班は西池の泥の排出、エコへの試験農園用の泥の取り出し。パトロールGは自然観察会の実施。果樹Gは山菜の収穫と販売、南側斜面の整備、鹿除けフェンスの網張など。

### 4月13日(木)晴れ 76名

鐘馗竹人形造りについて希望者に対して部材の提供と説明があった。

里山Gは椎茸椀木置き場周辺の間伐処理、薪棚新設。エコGは水田にパネル敷設、里芋植付け、菜花の撤去など。景観Gは筍掘り(60本)、BC周辺草刈りなど。花班は山野草園の草引き、カワラナデシコ、ヒトリシズカの移植。ビオ班はタナゴ池の整備、掃除、西池の泥抜き。パトロールGは1コースのパトロール、銘板取付けなど。果樹Gは山菜の収穫と販売、スパイダーモアの運転講習会(澤田さん指導)と除草など。



### 4月20日(木)晴れ 73名、近大生3名、 県関係4名。

奈良県環境政策課から広報取材に来訪。

里山Gは薪棚の新設、薪棚周辺の間伐処理と整備。エコGはモミ播き、夏野菜の移植など。景観GはBC、彩の森の草刈り、筍掘り(55本)など。花班は山野草園の草引き。ビオ班は近大生と共にタナゴの調査など。パトロールGは2コースのパトロール、銘板取付け、テントの修理など。果樹Gは山野草収穫、南側斜面の除草、鹿除けフェンスの設置準備など。

## 里山グループ



## エコグループ

## 明治神宮の杜を見て

福田 美伸

先日、東京へ行った折、以前よりもう一度と  
思っていた明治神宮を訪れました。学生時代に  
二度訪れ、さらに50年以上経った今回は三度  
目である。明治天皇と昭憲皇后をお祀りする明  
治神宮は、約170万平方メートルの広大な鎮守  
の杜で、30m近くなった高木を見て、私はこの  
杜にいっそう魅了されました。

明治天皇と昭憲皇后の崩御後、陵墓は京都の  
伏見桃山となったが、国民の願いによって明治  
天皇を祀る神社を東京に創建する運びとなった。  
当時は荒地の様相であった土地に、永遠に続く  
鎮守の杜を作る。そのためには自然林に近い状  
態を作ることが必要だと考えた。そのプロジェ  
クトの中で森林担当の主査を務め、設計したの  
は、ドイツで森林学を学んだ本多清六博士と庭  
園分野の本郷高德、上原啓二の3人であった。  
本多は100年先まで見据えて段階的に成長し  
ていく森を構想した。多くの神社では杉が植え  
られているが、この地では難しいと考え、椎、  
檜、楠の常緑広葉樹森の主木として選定した。  
当時の内閣総理大臣大隈重信は大反対した。大  
隈は伊勢神宮にあるような荘厳な杉林を強く求  
めた。本多らはいかに杉林がこの地には適さな  
いかを林学的な見地から説明し、ようやくプロ  
ジェクトを進めることができたと言う。全国か  
ら奉納された献木が約10万本植えられ、1920  
年に明治神宮は完成した。102年経った今、明  
治神宮の杜は本多らが描いた永遠の自然林が完  
成したと言えるだろう。

私たちの「ならやま」も部分皆伐で10年や  
20年の短いスパンではなく、50年、100年先  
を思い描き、孫やひ孫たちに受け渡すことの  
できるものを残してやろうではありませんか！

<参考文献>明治神宮“杜・見どころ”

<https://www.meijijingu.or.jp/midokoro/>

## 野菜作り見習い

岸田 玲子

昨年入会后、エコファームの活動に参加する  
ようになって、まもなく一年が経とうとしてい  
ます。全てが新鮮で勉強になる一年でした。な  
らやまのレタス栽培の真似をして、家でもマル  
チシートを敷いてサンチュを作ったら今年はと  
ても上手く出来ました。以前は直植えしていた  
為、泥はねで葉が汚れたり腐ったりしていたの  
です。

菜花の植え付けで余った苗を少し貰い、家で  
植えてみましたが、収穫のタイミングがわから  
ずそのまましておいたら、花が咲き乱れてき  
ました。菜花はもっぱら『ならやま産』を購  
入して食べ、我が家の菜花は観賞用となってい  
ます。同じく、有効期限の迫った小松菜の種を  
ばら蒔いたところ、綺麗な黄色の花が咲いて春  
の彩りを添えてくれています。

野菜の栽培は難しく、なかなか思うよう  
には育ってくれませんが、これからも見よう見  
まねでチャレンジしてみたいです。

ならやまで旬の野菜をたくさん買って帰ると  
その下処理や保存にアタフタしますが、知らな  
かった調理方法や食べ方を教えてもらって野菜  
の食生活が、ずいぶん豊かになったような気が  
します。

以前は捨ててしまっていた大根の葉っぱも、  
ちりめん雑魚・鰹節・胡麻などと共に佃煮にし  
て美味しくいただいています。スーパーで買っ  
てくる小綺麗な野菜よりも自分たちで作った野  
菜には愛着が沸き、美味しく感じられるのです。



虫だより

昆虫の季節型

菊川 年明

私たちがならやまでよく目にする昆虫の中で同一種であるのに季節により大きさ、翅の色彩や形などが変わるものがあります。その変化がよく見られるのはチョウ類で、年間に何回も発生を繰り返す種に見られます。それぞれ春型、夏型、秋型と呼ばれています。

季節型がよく目立つチョウのグループはアゲハチョウ類、シロチョウ類、タテハチョウ類、シジミチョウ類などの一部です。

特徴は概してのことではありますが、春型は小型で翅の模様は鮮明、色彩は鮮やかです。夏型は大型で、翅の模様は鮮明さが少し乏しく、色彩は少し暗色になります。タテハチョウ類などのごく一部に春型がなく、夏型と秋型のものがあります。その中でもキタテハは典型的で、翅の色彩は、夏型の表面はオレンジ色、裏面は黄褐色、秋型の表面は赤みが加わり、裏面は暗褐色になります。加えて、秋型の翅の縁の切れ込みは夏型より深くなります。

秋型のチョウはほとんど成虫態で越冬し、春にはまた活動しますので次世代は夏型になります。

写真はキタテハの翅の裏面で、夏型(上)と秋型(下)です。違いがよくわかるのは翅の縁の切れ込みです。

夏型は浅く、秋型は深いです。翅の裏面の色彩は夏型黄褐色、秋型暗褐色で、モノクロの

写真でも夏型に比し秋型は黒ずんでいるのがわかりいただけだと思います。



里山の今



花だより

スマレ

山本 美智子

スマレは日本の春を彩る野草の代表です。世界では400種以上が広く分布し、日本には約50種。よく見ると何とも変わった花形をしています。5弁花で左右対称。後ろにツンと突き出た「距」という部分があります。子どもの頃、この距に花をからませ、引っ張り合って遊んだ思い出があります。

スマレには地下茎で増える仲間と、地上茎で増える仲間があります。また、花色は、紫、淡青、紅紫、白・・・葉型は、丸、卵、三角、長、心形・・・香りのある少数派も。同定は難しいが、葉の形、葉がねるか・立つか、無毛か有毛かなど。ならやまでタチツボスマレ・シハイスマレ・ノジスマレなどが見られます。

種子は、普通の花からの結実は無く、閉鎖花という種子だけを担う柄を伸ばします。種子が熟すと閉鎖花は上を向いて種を勢いよくはじきとばし散布します。3mも先にとばすこともあるそうです。

種子は、「エライオソーム」という物質でコーティングされていて、これは、アリの好物です。巣に運んでエライオソームだけ食べ、あとは巣の外へ捨てます。捨てられた種子がその場所で発芽します。石垣の隙間など驚くような場所で咲いているのは、運び屋のアリの仕業だったのです。これはスマレの生き残り作戦の長い進化の結果です。命名は花を横にした形が大工の道具の墨入れに似ているからとの説が一般的。「スマイレ→スマレ」。(他説もあります)

万葉集や、短歌、俳句、宝塚歌劇団の歌詞、可愛らしさを人の名に託したり、日本人が深く親しみ、愛でられてきたスマレ。

山路きて 何やらゆかし 董草

(松尾芭蕉)

## 新入会員歓迎会・レポ

國方 まり子

奈良・人と自然の会、恒例イベントの一つである新入会員歓迎会が3月30日(木)ならやまベースキャンプで開催されました。参加者は会員68名とジュニア自然大学の担当者7名。



朝晩はまだ寒さを感じますが、当日はお天気に恵まれ暖かく、ベースキャンプにある2本の桜は満開、時折花びらがちらちら舞う姿は風情たっぷりです。歓迎会に花を添えてくれました。

朝礼の時に会長よりタイムスケジュールの説明があり、イベント開始は12時からになりました。それまで新入会員6名の内2名は竹の子掘り体験へ行く事になり、その間、昨年の新入会員と先輩会員有志スタッフ一同は賄いの調理準備、グループ活動の紹介パネルの準備、歓迎ボードの取り付け、手作り



桜花の飾り付け等に忙しく動き回っていました。

さて、今年の歓迎会メニューは焼きそば、ネギ焼き、おでんの3種類。それぞれの当番スタッフが支度を始め、時間と

共においしそうな匂いが辺り一面漂ってきました。私はおでん当番でしたので、前日に池田さん宅にお邪魔して先輩方と一緒に下ごしらえをしてきました。そのお陰で当日は戸惑いながらもスムーズに提供することができました。12時になりイベントが開始。担当幹事の有元さんより歓迎の挨拶があり、続いて新人会員お二人の自己紹介や入会の動機、これからの抱負が語られました。その後和やかな楽しいランチタイムになりました。ランチ後、13時半からパネル前で各グループのリーダーによるオリエンテーションが始まりました。新旧会員入り交じって説明に耳を傾け熱心に聞き入っていました。あっという間に2時間が経ち、14時にイベント終了となりました。



新入会員のみなさま、入会おめでとうございます。並びに今回のイベントに携わられたみなさまお疲れさまでした。また急遽お手伝いしていただいた澤田さん、松本さんありがとうございました。コロナ禍も少しずつ落ち着いてきています。来年度こそはマスク無しでできますように祈るばかりです。



新入会員のみなさま、入会おめでとうございます。並びに今回のイベントに携わられたみなさまお疲れさまでした。また急遽お手伝いしていただいた澤田さん、松本さんありがとうございました。コロナ禍も少しずつ落ち着いてきています。来年度こそはマスク無しでできますように祈るばかりです。



仲間入りしました

三松 光一

奈良県 斑鳩町在住です。

シニア自然大学校(29期・火曜コース)を3月に修了し、4月に入会させていただきました。

デスクワーク中心の仕事をしていましたが、自然豊かな場所への旅行や星空を眺めることが大好きです。入会のきっかけは、昨年6月に実習参加した際、パトロール班の方に、活動について説明を受け、会員の皆さんが自然の中で楽しそうに活動されている姿をみたことです。

自然の中で、体を動かしながらよい汗をかきたいと思います。

しばらくは、自分に合った活動を見つけるため色々な班の活動に参加していくつもりです。皆さまよろしく願いいたします。



清原 加代子

耳をすませば、鳥のさえずり。見上げると、山あい広がる空と雲。新緑に陽が射し、浮き出る葉脈の美しさ。風にそよぐ山野草。葉陰に潜む虫たち。蜜を放つ花の香り。落ち葉を踏む感触。観察して歩くことが私は好きです。名前や生態を知ることが出来るのは幸せなことです。

昨年5月、夫に誘われて「生駒滝寺周辺自然観察会」に参加。田代貢先生のご説明は、配布資料が充実していて、ルートマップに観察ポイントの植物名と図解が丁寧に記されており、分かり易かったです。また、当日会員の皆さんが親しげに話しかけてくださり嬉しかったです。

この4月から家族会員として、私も入会することになりました。楽しみにしています。どうぞよろしく願いいたします。



高下 美知子

私はシニア自然大学校の実習に二度(12/15・2/16)参加させていただき、奈良・人と自然の会の「明るく・楽しく・無理をせず」の言葉がおもしろく、なるほどと覚えておりました。

ならやまのパトロール実習を受け、子供の頃走り回った山、畑を思い出し、気持ちがいやすらぎ入会しました。

私は瀬戸内海の小島(粟島)で育ちました。島では小学校までしかなくて、卒業と同時に島を離れ、高校からは下宿生活です。島民も減り続けております。今は「漂流郵便局」と検索すると粟島が出てきます。瀬戸内国際芸術祭の作品の一つです。イギリスにも支店があるとか？



大山 博美

春から参加させていただいています、大山博美です。出身は大阪の寺田町で、祖父の代から縫製業を営んでいました。時代の流れとともに廃業後、転々と引っ越し、今は大和西大寺に居ます。以前から気になりながらも、なかなかできなかった活動に出合いました。毎回、新しい発見があり嬉しいです。

趣味は読書(最近はオーディブルがもっばらで聴書といった方がいいかも・・・)

ドライブ、ハイキング、道の駅、温泉巡り、水泳、テニス、スキー、スキューバダイビングなど、広く浅く続けたいと思っています。

大先輩の足手まといにならないよう、楽しみながらやっていきます。よろしく願いいたします。



2023.4月 月例研修会・レポ

## ナメゴ溪谷 桜の眺望

飯島 八重子

4月18日(火曜日)天候を気にしながらも当日は晴れ! 気温も上々の中、8時に25名の参加者を乗せたマイクロバスはこれから行く絶景眺望のナメゴ溪谷のお花見に心もウキウキ。和気あいあいのお喋りの中スタートしました。

実は2021年の11月の1泊研修会で、当初2日目に「ナメゴ溪谷の紅葉狩り」が予定されていたのです。その時は中型バスでの行動であったために、ヘアピンカーブの細い道では運行が無理だということで断念した経緯がありました。そして今回の研修会ではマイクロバスで行くというリベンジになったのです。

さて一度のトイレ休憩を挿み169号を經由し、多武峰街道から宮滝や川上村を通り上北山村を結ぶR309号線からいよいよ行者還林道へ。

間もなく車内のあちこちから「わあ〜! 凄いわ〜!」「綺麗〜!」の音が響き渡り、いよいよヘアピンカーブの行者還林道です。その道を上手に運転してくださるのは運転手の岡田さん(お世話になりました)。待望の目的場所に到着時刻は10時50分。皆さん一目散に眺望場所へ…来たかいはありましたね〜!!「こんな場所はなかなか来られへんわ〜」「桜は散ってしもてるかと思ってたけど、ちょっと残ってて良かったなあ〜」そこかしこから聞こえてくる感激の数の声の数々。参加者皆さまの感動の思いを紙面では表せませんが、目の前に広がるロケーションの素晴らしさ、深緑の山の中で尾根筋に織りなす自然のグラデーション。名残の桜の薄ピンク、そして花の後を補うかのような若葉の新緑、広葉樹の新芽の緑、本当に素晴らしい眺望でした。今回の月例研修会の企画に感謝です。

ここで「ナメゴ谷」についてちょっぴりメモ

ですが、なぜこの素晴らしい景色が? には二説ほどあります。一説には「山火事の際には広葉樹が燃えにくく山林火災の防止のために植生された」。もう一説には「境界線をハッキリさせるため敢えて広葉樹を残した」。皆さんはどちらと思われますか? いずれにせよこの素晴らしい景色を見る事ができるのはありがたい事ですね。

さて眺望場所では路肩駐車でもあり、感動の時間もほんの10分間で11時には出発、もう少しこの感動の高揚感に包まれたかったのですがそろそろお昼時間、お腹も空いてきました。そしてバスに乗るなり心はお花見のお昼ご飯。一路、バスは昼食場所の「あきつの小野公園」へと急ぎます。車中では「お腹減った〜」の声…(やっぱり今回のもう一つのお楽しみは年一回のお花見の宴ですよ)。

12時過ぎ到着した公園では桜が少し残っておりシャクナゲも満開で早速「柿の葉寿司」を頬張る人やおつまみ片手にビールやお酒をご機嫌宜しく飲まれる方々、そして出ました「ならやま音頭」、飲まれる方々はそれなりに、飲まない方もそれなりに集まり、楽しいひと時を過ごしました。昼食時間も2時間ほど余裕があり10人の方は蜻蛉の滝の散策に、滝では落差約50メートルの豪快な滝飛沫に感動された様子。記念写真もバッチリ撮影。14時過ぎには大滝ダム見学へ、紀ノ川本流の上流部に建設された100メートルの重力式コンクリートダムに圧倒され、その後帰路に…。帰りのバスの中ではMさんAさんからの景品付き難問珍問クイズ大会もあり、車中は爆笑に包まれ、事故もなく無事に楽しい月例研修会の終了となりました。



## タンゴに魅せられて

増田 典男

### —タンゴアンサンブルとの出会い—

昭和41年春に大学入学、音楽が好きだった私はギター部に入部した。新人全員での大合奏の練習に明け暮れた。秋の定期演奏会が終わると3つのバンドに分かれた。クラシック、ポピュラーそしてタンゴ。どれでもよかったが個性的な先輩が多いタンゴバンドを選んだ。楽譜をいっぱいもらって、授業が終われば遅くまで練習。帰りは梅田で餃子とコーヒー、帰宅は真夜中の生活が続いた。20歳前、体力、気力は有り余る頃だった。

### —タンゴとの再会—

卒業するとギターとは無縁になった。高度成長期時代みんな必死で働いた。家庭を持ち、子供が出来た。そして気が付けば50代、ええおっさんになりました。

ある日ギター部の同期生から電話があった。「梅田で飲んでるから来ないか?」、行ってみるとギター部の懐かしい顔が集まっていた。他のバンド仲間が卒業後も集まっている、とのこと。ええ!ギター? ずっと弾いてたの! 我々の世代だけの同窓会なんだけど連絡つく人いたら誘ってよ。年賀状だけで繋がっていた仲間に連絡し輪が広がった。独奏できるものはみんなの前で見事な演奏を披露、弾けないものは指をくわえて聴くだけ。数年そういう同窓会だったがある時「もう一度タンゴやってみないか」と提案した。「ギターも持ってないし」とタンゴ仲間は乗り気ではなかった・・・

### —タンゴアンサンブル「Tango 03」の結成—

古い住所録と年賀状、人の縁、パソコン検索、で10人ほどが2003年春、私の家に集まってバンドの結成を相談した。なんの事かわからず

に来た方もいた。ギターを担いできたのはわずか3名、楽譜はほとんど消失、前途多難、しかし「今始めたら60の定年の頃にはいい趣味になるで。頑張っやろうや」で全員一致。

バンド名はTango 03 (タンゴ オーサン)  
「2003年結成、おっさん、王様になろう」

### —Tango 03 2003年～2023年—

メンバーの多くは管理職、毎週練習はできません。よく出来た音楽ソフトのお陰でいつでもどこでも自宅練習ができる。編曲は広島在住の大先輩が泉のごとく送信して下さりレパートリーはどんどん増えた。縁あって「奈良ギターアンサンブル演奏会」の常連になり、年二回は奈良での演奏会に参加。大阪で開催される権威ある「日本ギター協会演奏会」では金賞4回、銀賞3回、協会賞も受賞した。その他にネットで探したアルゼンチンギターアンサンブルの「千葉ギター」とは年一回の交流会を、現役の大学ギター部タンゴバンド交流会など続けてきた。



結成5周年、10周年、15周年、編曲100曲記念演奏会に多くのファン・友人が来てくれた。

この3年間はコロナ禍で中止になった演奏会が多いがだんだん復活してきた。2003年に結成して今年が20年目、記念演奏会を9月に大阪で開催予定。奈良の演奏会は5月と11月に。音楽・ギターが好きな方気軽に声をかけてください。ご招待・ご案内させていただきます。

ギターは左右の指を同時に使います。ボケ防止には最高の運動と思って永く継続したいと思っています。里山とは縁のない話ですが投稿の機会を与えて下さった会報編集関係者に心より感謝いたします。

## 『遊行期への随想』

羽尻 嵩

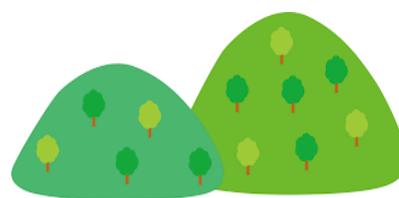
会報の先月号で、菊川年明さんが卒寿を迎えられたとの記事がありました。今後も会の活動を共にやれることをうれしく思います。この会の会員も、長寿の方が増えてきていますが、かく言う私も傘寿が近くなり、これからの生き方・あり方をいろいろ思うようになりました。そんな折、本屋で作家の五木寛之さんの「人生百年時代の歩き方」という本を見つけました。ここではその本の内容を紹介し、私の思いも触れたいと思います。

五木さんは、1932年生まれて、朝鮮半島で幼少期を過ごされ、引き揚げ後、ルポライターなどを経て、作家として活動をしてこられました。さきほどの本の中で次のように触れておられます。「私たちは、誰もが百歳以上生きるかもしれない時代を生きている。ならば、新しい生き方に切り替えてみてはどうだろうか。人生の目的は、生き抜くことです。どんなにつらい人生であっても、20代でなくなったとしても、20代まで生きたということに値打ちがあると私は考えるのです。仏陀は、思い通りに設計できないことを苦と表現したのです。死は思うに任せないものです。・・・人生百年時代は、長い人生をどう生きるかと同時に、自分はどう逝きたいかを一人一人が真剣に考え、まわりにも伝えておかなければならない時代と言えるでしょう」

さらに次のようにも述べておられます。「古代インドに四住期という考え方があります。学生期(がくしょうき)は、世間から学ぶ義務が課せられている時期。次の家住期(かじゅうき)は、世の中に出て生計を立て、社会的に活動する時期。その次が林住期(りんじゅうき)で、それを迎えた人は社会生活から身を引き、いろいろなを考えたり、瞑想したり生きがいを探す時期。そして、人生最後の遊行期(ゆぎょうき)に至る。俗を離れ、ゆったりと過ごす人生

の最終段階です。インドの人々にとっては、ガンジス川は聖なる川。その畔で死期を迎え、遺灰をその流れに委ねることは人生の究極の夢とされています」と。

私ごとですが、振り返ってみると、20代から60代半ばまでの家住期を四苦八苦して乗越え、定年後は琵琶湖や近隣の和歌山・四国など大きな川を、景観を楽しみながらカヤックで漕ぎ下る遊びに興じていました。そして、それも飽きてきた頃、大阪のシニア自然大学校で環境問題に関心を持つようになり、この会の活動に参加して里山の保全の活動にのめり込み、活動の楽しさを満喫し、沢山の方とも知り合いになり、十数年経ちました。これが、五木さんの言われる林住期だったかと思えます。さて、遊行期は余計なものを捨て、軽やかにいきたいと考えていたところ、たまたまNHK「新日本紀行」の番組で東京都の唯一の村の檜原村のことが取り上げられているのを見ました。この檜原村は、林業中心の山村で、高齢者ばかりの過疎の山村になっていました。そんななかで、この村に住んでこられたある方が、この村を活気ある地域に変えようということで、「紅葉の会」を立ち上げられ、村の人たちに呼びかけて、紅葉の苗の植樹をはじめられたそうです。そして、村にこられた人たちが宿泊できるシェアハウスができて



間もなくして、一人の若者が活動の趣旨に賛同して住み着いてくれ、村の再生活動に希望が見えてきたとのことでした。

私はこの番組を見て、私のこれからの生き方を示すヒントが足下にあったことに気づきました。“そうだ、私のこれからは、このならやまの里山の整備を続けることだ。そして、将来、頃合いの年になったら、頃合いのいい日にこのならやまに来て、つれづれなるままに感慨にふけりたいな”と。

イチジクの病害虫—I  
(病虫害講座—48)

カミキリムシさん登場

木村 裕

イチジクは好物ですか？ 昔は何処にでも植わっているごくありふれた果樹で、果樹の中ではかなり地位は低かったようです。しかし、今では高級果樹に昇格したようで、我がワイフも好物ですが価格が高くて手がでないようです。昔のイメージが強すぎ。

確かに価格は高くなりましたが、果実は大きくなり、味もよくなりました。害虫にとっては、果実が大きくなろうが、味が変わろうがあまり気にしていません。

【カミキリムシ】

イチジクの木を植えて4~5年すると、必ずといってよいほど幹から褐色~暗褐色の木くずがこぼれ出てきます。これは通称テッポウムシ(カミキリムシの幼虫)が幹の中にすみついていて、主として幹の材の部分を食べるため、枝がもろくなったりはしますが木全体が枯れることは少ないです。



イチジクはクワカミキリとキボシカミキリの2種類のカミキリムシの餌場となっています。これら2種の虫はクワも好きな食べ物ですが、養蚕業が衰えてクワの栽培面積が減ったことで大きな打撃を受けたと虫がこぼしています。食べ物を変更すればよいのですが、どうもカシやサクラなどは口にあわず困っています。

昆虫は、それぞれに食べ物を決めていて餌の取り合いがうまく調整されていますが、クワのように人間の都合で減少させられることもあります。



クワカミキリ



キボシカミキリ

成虫は大きくて触角が長い甲虫ですので、子供たちの格好の獲物になります。クワカミキリは長さ5センチ前後、黄褐色。キボシカミキリは長さ3~4センチ、灰色で黄色の斑紋がいっぱいあり、触角が非常に長いです。成虫は柔らかいイチジクの樹皮を浅くかじるため、今年伸びた枝の表面がささくれだちます。

【アザミウマ類】

厄介な害虫で、果樹園ではなく、流通上でも問題となっています。美味しそうで見栄えのある果実を買っていざ食べようとした時に事件発生です。果実の中心部が黒褐色に変色しています。気にしないで食べるか、その部分を切り取るか、すべて廃棄するかは皆様方の判断してください。これはイチジクが開花したときに小さな虫が侵入して汁を吸ったために起こりますが、外観上はまったく異常がないので困ります。



# 新ならやま投句箱

俳句

ふれうごくあわき紅さす花水木 小島 武雄

山桜マツタリ見ている昼休み 羽尻 嵩

初筍ほのぼの市の賑わへり 藤原 勲

山笑うあの人逝きて七歳ななとせや 八木 順一

藤棚に揺れる長房濃むらさき 中井 弘

花の香に居並ぶさくらしべも仏もさんざめき 八木 健彦

音もなく桜さくらしべ降る夕べかな 山本 美智子

里山に魔除けの鍾馗揃い踏み 鈴木 末一

花筏流れ流れて何処までも 福田 美伸

床の間は義父チチのチチ鼻肩藤娘 阿部 和生

ナメゴ谷桜さくらしべ降る龍の道 豊田 浩代

花水木よそじの老木花少し 坂東 久平

ナメゴ谷桜藤花絵羽模様 森 和子

深緑の間に見える山桜 永井 幸次



新ならやま投句箱への投句有難うございます。今後とも宜しくお願い致します。

川柳

チャット GPT AIの奴隷世も末や トラ吉

コロナ慣れ視線集めるノーマスク ぜんさん

優等生近頃チラシに出番なく 玉ちゃん

短歌

十六夜の西に傾く月を見て

時空を超えて業平忍ぶ 内河 洋文

野に競うふぐりに踊り子種漬花

私も見てねと鴉あじやく雀野豌豆 千載 輝重

藤の花蜜を求めて群れる蜂

フジのハチミツ何故ないのかな 戸田 博子

ナメゴ谷誰が植えたか山桜

竜の如くに山駆け昇る 富江 文雄

嘆くまい世俗の浮沈忍ぶれば

いで春色に華やぎ香る 谷川 雅邦

次号締め切り 7月20日 投稿先 田中善英

# 行事案内



## 5月自然教室のご案内

### ヒトモトススキを訪ねて大阪側の 生駒山麓を歩く

小島 武雄

皆さまおなじみの田代貢先生と一緒に歩く、自然観察会のご案内です。

枚岡駅から梅園、神社を通り山裾を歩きます、登りはほとんどありません。

椋ヶ根橋～公園事務所(昼食)額田駅～線路沿いを歩き～爪切り地藏、旧生駒トンネル、孔舎衛駅舎跡～日下新池、健康道場跡～石切駅解散

前半は、動植物主体で後半は歴史、地学的な地域自然史。鉄道関係の話と多彩です。

皆さまこぞってご参加ください、お友達も歓迎です。

#### 実施要項

1. 日時: 5月15日(月)10時00分～15時頃(予定)
2. 集合場所: 近鉄枚岡駅(奈良方面からの改札出口付近)
3. 持ち物: 弁当、お茶、筆記用具、あれば図鑑とルーペ
4. その他: 申し込みは不要です。

雨天時の中止は当会申し合わせ通りといたします。(但し、予備日は設けておりません)

担当: 小島



# 奈良学クイズ

飛鳥時代の瓦(写真)が現存している寺院に  
関わる各問にお答え  
ください。



問1] 国宝建造物が、3棟あります。極楽堂、禅堂  
ともう一つは何でしょうか。

【問2】 次の文章中の下線を引いた箇所について、  
正しければ○、間違っていれば正しい言葉  
をお答えください。

① 昔、泣きやまない子どもを諭すのに、「ガゴジが  
来るぞ」とか「ガゴゼが来たよ」と言ったといい、  
元気のいい子どもを「ガガゴ」「ガガボウ」と呼ん  
だと言います。

② この寺院の鬼伝説は、「大和靈異記」の道場法  
師の話が、その原型とされています。

③ この寺院は、日本最初の本格的伽藍である寺  
が、平城遷都にともなって、藤原氏寺から官大寺  
に性格を変えて新築移転されたものです。

【問3】この寺院の名称について、()に当てはまる  
漢字を入れてお答えください。

( ) ( ) ( ) 宗 ( ) ( ) 寺

#### 解答欄

|    |                         |  |
|----|-------------------------|--|
| 問1 |                         |  |
| 問2 | ①「ガゴジ」                  |  |
|    | 「ガゴゼ」                   |  |
|    | 「ガガゴ」                   |  |
|    | 「ガガボウ」                  |  |
| 問3 | ②「大和靈異記」                |  |
|    | ③藤原                     |  |
| 問3 | ( ) ( ) ( ) 宗 ( ) ( ) 寺 |  |

#### 【応募要領】

締切日: 5月4日(木)

記念品: ?!?!?! (お楽しみ)

応募方法: Mail

**2023年4月度 幹事会報告**

開催日：3月28日

I. はじめに

- ・奈良県との協定は現協定内容をそのまま3年間更新した。今一度協定内容を再確認し、景観整備に齟齬をきたすことのないように。

II. 会計・総務部より

- ・会員動向：入会2名 会員数151名
- ・会計：月次収支の内容に加えて

2022年度集計概要報告

III. 活動・行事関係

\*ならやまプロジェクト関係

- ・BC周辺の草刈りは観察会終了まで禁止
- ・チップパー機の軽トラからの積み下ろしは危険を伴うため適格者を決めて安全に対応する
- ・4月より賄い(味噌汁)は休止する
- ・終礼時に各G持ち回りで振り返りの話をする
- ・活動予定に糶まき日(4/20)を記載する
- ・組織体制、機器使用者登録見直し4/10まで
- ・奈良県との協定更新(3年間)

\*イベント関係

- ・3/30 新入会員歓迎会
- ・2023年度イベント担当・担当者確認
- ・「山の日川の日」イベントガイドブック掲載内容について：7月のみとし、カレー飯盒炊爨を含めた一日とする
- ・ジュニア自然大学対象イベント：「里山」をテーマに一日。3月30日下見来訪打ち合わせ。

IV. 企画、助成金事業案件

- ・2024年度申請検討中

V. 特定議題

- ・総会：5/20(土)13:00~15:00 各Gからの活動状況の説明を中心に簡潔に進めたい
- 懇親会は16:00~18:00

VI. 広報関係

- ・ネイチャーなら5月号編集内容について説明

VII. 報告・連絡事項、その他

- ・月例研修会4/18 自然教室4/6 以上



JR奈良線のガード下をくぐると、ビオが見える。4月になってカエルの合唱が始まり、ムラサキサギゴケが咲いて賑やかになった。

最近、ビオエリアは見た目にはきれいに安全になった。でも、異変に気がついた。シュレーゲルガエルが減った。植物の種類が変わったし、昆虫も減ったようだ。いろんな意見を聞いた。「人にとって都合の良い環境は他の生物にとって住みやすくはない」、「人が作った物には角がある」、「ならやまは公園ではない」、等々。

ビオ班は「人が作った角が取れて、自然と一体となった丸みのある、生物にやさしいビオ」を目指すそうだ。試行錯誤の日々は続く。次は何が起きるのか、楽しみだ。

\*\*\*\*\*

**6月ならやま活動&行事予告**

- \*ならやま活動 6/1 協働活動日
- 6/8 田植え予定
- 6/22 春の感謝祭予定
- \*例.研 6/13(火) 葉草の里と宇陀松山城
- \*自.教(未定) 佐保台小 放課後子供教室

会員動向(敬称略)

- <入会者> 4/1 清原 加代子
- 三船 光一・和田 陽子
- 4/13 辻窪 有紀
- <退会者> 3/31
- 岡田 安弘・岡田 高志
- 大澤 教男・衣笠 博美
- 高須 良子・越智 健介

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：端午の節句に向けて、鈴木顧問の指導による作品です。